

2025年度 入学試験 学特入試 I

国 語

※問題は[1]ページから[15]ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を記入してください。

学 特 入 試 I	受 験 番 号		氏 名	
-----------------------	------------------	--	------------	--

高崎健康福祉大学高崎高等学校

□ 1 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 い に 答 え な さ い 。

山間地農業の農業所得は低い。合理的な経営を考えるかぎり、山間地農業は経営として成り立たない^ア。なぜなら農業労働の一時間あたりの所得を計算すると、一労働時間によって得られる経済価値は、社会的な平均に遠く及ばないからである。農業を時間労働と経済価値の関係からとらえるなら、少なくとも山間地では農業をつづける理由はない。時間の合理性の破綻は、経営の合理性の破綻をも意味している。

といっても私の知るかぎり、専業農民に戻った上野村の高齢者たちは、不満をいだきながらそうしているわけでもないのである。なぜなら農民に戻り、村人の時間世界を取り戻していくことは、客観的な時間の支配からの解放としても意識されているのだから。時間から経済的合理性を追放したとき、はじめて村人は自然と結びあえる時間世界を、あの循環していく村人らしい時間世界を回復していく。

合理的な時間世界からの離脱^ウは、経済的合理性からの離脱を伴いながら、村人たちに時間の自由を回復させていった。そしてここには、近代的産業と伝統的職業との根^Aゲンの対立があるのである。近代的産業、すなわち近代的商品生産は、時間価値の客観化と合理性を基礎^Bにして展開している。ところが伝統的職業は、その職業に特有な時間世界につつまれて展開するのである。

実際農民たちは、農業は近代的産業のひとつなのか、それとも伝統的職業なのかという問いかけに、日々追いかけられている。もし前者であるなら、農業もまた時間価値の合理性を確立しなければならぬ。それを追求すれば、少なくとも山間地農業のほとんどは崩壊するしかないだ

ろう。では農民は、もともと農業がもっていたような伝統的な時間世界のなかで生きていけばよいのか。だがそれを求めれば、今日の社会の仕事から離脱することになりかねない。

この矛盾のなかで、農民は気持の半分のなかで農業経営の合理性をつくりだそうと努力し、また気持の半分のなかではそれをこえた大地と作物の世界のなかで農業を営む。

上野村の若い農民たちに言わせると、この村は水田が一枚もなく、農地の狭いことが幸いしたのだという。それがゆえに、戦後の農業政策は、上野村を相手にしなかった。稲作の近代化も、畜産^{*}団地づくりも、果樹や野菜の産地形成も、村の外でのできごとであった。

に労働時間の経済価値を確立しようとする農業近代化は、この村では実現しなかったのである。

I 農業

それは結果として伝統的な農民の暮らしを持続させた。まずもって農業は自家^Cシヨウ費用の作物をつくるために営まれる。第二にその作物は山村社会のなかで分配される。そしてそのうえで換金作物がつけられる。とともに暮らしは所得の範囲内で営まれるのである。一労働時間あたりの所得がいくらになるかは計算されていない。集落機能が維持され、伝統的な農業と暮らしの関係が守られていれば、少ない所得でも暮らせるのが伝統的な農村である。すなわちここでは、労働時間に経済的な価値を求める近代的な営みとは異なって、作物を育てながら暮らす農家の伝統が持続された。(a)

いまの上野村の若い農民たちは、この伝統的な労働と暮らしの関係に、都市とは異なる山村の文化をみいだしてきた人々である。だから彼らの目には、耕地の狭いことが、つまり農業の近代化をとげようもなかった

ことが、かえって山村的な労働と暮らしのかたちを維持させてきたように映る。

確かにそうなのであろう。だが近代的な時間価値とは異なる時間世界のなかで生きることが、農民たちに多くの困難を強制してきたことも確かなのである。それは急速な村の過疎化をすすめて、今日では近代的な時間価値に意識的に対抗する者と、もはや時計の時間の世界から離脱することを許された高齢者たちによって、この村の農業は担われるようになってきた。(b)

かつて私は、その職業ごとに独特の雰囲気をもった人々がいるのはなぜだろうと思っていた。以前は農民は農民らしく、商人は商人らしく、職人は職人らしかった。おそらくそれは、その職業につく人間たちが、それぞれに独特な存在のかたちをもっていたからであろう。そしてその存在は、その職業とともにある時間世界の固有性と結ばれていたに違いない。

ひとつの社会のなかには、多様な時間世界が展開していた。そしてその時空の移動は、多くの場合容**D**いなことではなかった。

春になると私は上野村の村人と一緒に、近くの村に山菜採りにでかける。そこにはヤマウドなどがたくさん芽生えていて、カッコウやウグイスの鳴き声を聴きながら山歩きをするのは、村人たちの楽しみでもある。昼になると村人は森の木陰で弁当をひろげ、子供のようにはしゃいでいる。

その間にも森から見下ろす畑の上では、春の耕作をすすめる隣村の人々の姿がみえる。それは上野村とは全く異なる農業である。山の裾野は広大に開墾され、大型トラクターが動いている。高冷地の野菜専用の

農地、その光景をみると上野村の人々も感嘆の声をあげる。三反^{*}もあれば大百姓といわれる上野村とは違って、ここでは一区画が一ヘクタールをこえるような農地が切り拓^{ひら}かれている。

「この村の人たちは偉いものだ」

そう言いながら上野村の人々は、この村の農民たちを賞讃する。

ところが毎年同じように感嘆しているのに、上野村の人々は少しもこの新しい農業を真^ま似しようとはしない。村に帰れば、村人は鍬^{すき}や鋤^{くわ}を使った伝統的な山村農業に従う。もちろん真似をしようにもケイ斜^Eのきつい上野村では、同規模の農地を造成することは不可能なのだけれど、それでもその気になれば開墾可能な場所もないではない。何よりも、この村では上野村の農民の平均所得の百倍をこえる粗収入のある農民が多数いることを、上野村の人々も知っているのにである。

おそらく毎年感嘆の声をあげるだけで終わってしまうのは、上野村とこの村の農業の間には、根本的に違う営農の世界があることを、上野村の人々が知っているからであろう。上野村の農業は伝統的な畑仕事として展開している。季節の循環とともに作物をつくり、その作物を利用して村人もまた循環する季節とともに暮らしている。

Ⅱ 隣の村

でおこなわれている農業は、農業経営なのである。ここでは農地が商品の生産工場になっている。(c)

上野村の畑では作物をつくり、毎年同じ季節を迎えることに価値があるのに、この村では労働時間のつくりだす経済価値がすべてである。とともにこの相違は農業のかたちだけでなく、暮らしのすべての面にあらわれてくる。

たとえば上野村の人々にとっては、夕方の釣りも、春の山菜採りも、

秋の茸狩り^{きのこが}も、村人としての営みの流れのなかにある。その季節が戻ってくれば、村人はその仕事をし、夕方が戻ってくれば川に竿^{さお}を出す。もちろん畑仕事もこの循環のなかに組み込まれている。ところが時計の刻む時間が価値を生む世界に身を置いた瞬間から、そのすべての関係が崩れ去ってしまうだろう。時間は経済価値を生む時間と生まない時間に分裂する。そして経済価値を生まなくなった時間には、別の意味が^F与されなければならなくなるだろう。

その意味とは、充実した生活かもしれないし、休息や余暇かもしれない。それにどんな意味を与えようとも、こうして時間は管理するものへと変わり、それは時間に管理されることと一対の関係になる。

伝統的な山村の暮らしのなかでは、時間は終^{おわ}ることも、区切られることもなく循環していた。仕事も暮らしも、その隙間にあらわれるアソビも、すべてが途切れることなく山里の時間世界のなかを流れていた。そしてその時間の流れが、そのまま村人の存在であった。

ところが時間を管理し、時間に管理されるようになった瞬間から、時間は人間の存在から外化^{*}する。時間は時計の音とともに Ⅲ に動きつづけ、この時間に対応していくかが人々につきつけられる。かつては農民の営みとともに時間がつくられていたのに、いまでは時間にいかに対応していくのが、農民の営みになった。(d)

上野村の人々が「先進的」で近代化された農業経営の様子に感嘆の声をあげながら、けっしてそれを真似しようとしなのは、時計の時間が価値を生む社会への転換が、山村の暮らしや人々の意識のすべてを変えてしまうことを知っているからであろう。少なくともそこに自分たちの存在のかたちがないことを、村人たちは知っている。

春になれば山菜採りに遊び、秋になれば茸狩りに遊ぶ自分たちの前で、山に入ることもなく商品作物をつくりつづける隣村の農民たちは、自分たちのできないことをしている偉い人たちではあっても、自分たちと時間世界を共有している人々ではないのである。

時間世界を変えることは、自分の存在を変えることであり、自分自身を別の人間につくり変えることである。

(内山節「時間についての十二章」による)

(注) *上野村 筆者が暮らす群馬県の村

*畜産団地 酪農家が集まり、畜産物の生産を行う区域

*反 土地の面積の単位。約千平方メートル

*外化 分かれて離れてゆくこと

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 根ゲンの

1

① 財ゲン

② 夢ゲン

③ 幽ゲン

④ ゲン案

B キ礎

2

① キ床

② キ録

③ キ本

④ キ末

C シヨウ費

3

① シヨウ売

② 希シヨウ

③ シヨウ軍

④ シヨウ火

D 容イ

4

① イ師

② 安イ

③ イ腸

④ イ戸

E ケイ斜

5

① ケイ験

② ケイ画

③ ケイ譜

④ ケイ聴

F フ与

6

① フ録

② フ眠

③ 楽フ

④ フ豪

(2) 傍線部ア「ない」と同じ意味・用法のものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① もう今日は時間がない。
② 友との別れはせつない。
③ 上手に英語を話せない。
④ その答えは正しくない。

(3) 傍線部イ「農業を時間労働と経済価値の関係からとらえる」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 農業を、作業に取り組む労働時間に見合った収入が見込めるかという観点から考えること。
② 農業を、作業に取り組む労働者と経営者の関係性という視点から考えること。
③ 農業を、どうすれば合理的な経営が可能になるかという視点から考えること。
④ 農業を、山間地で行うのが本当に妥当かどうか、経済的視点から考えること。

(4) 傍線部ウ「離脱」と熟語の構成が同じものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 延期
② 国営
③ 被告
④ 恩恵

(5) 本文中の空欄 I ・ 空欄 II に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

10

11

- ① たとえば
② ところが
③ なぜなら
④ そのうえ
⑤ すなわち
⑥ ところで

(6) 次の一文を本文中に補う場合、〈a〉～〈d〉の中で最も適当な場所はどこですか。該当するところを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

〈農民は大地に投資をし、そこを商品の生産工程に変えた。〉

- ① 〈a〉
② 〈b〉
③ 〈c〉
④ 〈d〉

(7) 傍線部工「この伝統的な労働と暮らしの関係」とありますが、これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- ① 自分たちが食べる作物をつくり、余力で換金作物を栽培するといふ無駄のない農業を営める一方、農業に労働時間の経済価値を確立することが難しくなった。
- ② 近代的な農業体制を導入しないことで、都市にはない山村の伝統文化を守り続ける一方、農民たちが負担の重い農作業に従事し続けなければならない状況となった。
- ③ 一労働時間あたりの所得をあえて明らかにしないことで、作物を育てながら時間に縛られず生活することができ、時計の時間からの離脱という課題も生じた。
- ④ 自分と山村社会の構成員に足りる分だけの作物をつくり、少ない所得で暮らすことができるが、村の過疎化を招き、農業の担い手が限られることとなった。

(8) 傍線部才「ひとつの社会のなかには、多様な時間世界が展開していた」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- ① 職業によって様々な生活リズムが存在していたため、単一の基準が存在せず、今よりも時間を守る意識が薄かったということ。
- ② 様々な職業の人がそれぞれの仕事と結びついた時間世界の中で生活していたために、独特な存在のかたちを保持していたということ。
- ③ 多様な職業の人がそれぞれに固有の時間世界の中で生きていたため、その時空の間には越えがたい断絶があったということ。
- ④ それぞれの職業がもつ独特の雰囲気が社会の文化に豊かさをもたらし、それが時間世界の在り方をも規定していたということ。

(9) 傍線部力「それは上野村とは全く異なる農業である」とありますが、それを筆者が説明したものとして適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- ① 広大な農地と機械を用いて、効率的に商品作物を育てている。
- ② 標高と温度を生かし、季節の循環にそって野菜を育てている。
- ③ 農作業に取り組む時間と、労働に取り組む時間が同義である。
- ④ 伝統的な山村農業に比べて、経済的な価値はるかに高い。

(10) 傍線部キ「上野村の人々は少しもこの新しい農業を真似しようとはしない」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

① 新しい農業を真似することは、上野村の人々の築いた伝統文化が失われることを意味しているから。

② 新しい農業を真似することは、決して同じ時間を共有できない隣村の人々に教えを乞うことであるから。

③ 新しい農業を真似することは、経済価値を優先することを意味し、上野村の人々の理想とは異なるから。

④ 新しい農業を真似することは、農業を含めた暮らしや営みのすべてを変化させることになるから。

(11) 本文中の空欄 Ⅲ に入る語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

① 懐疑的

② 客観的

③ 歴史的

④ 能動的

(12) 本文で述べられている内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

① 上野村の農民は、農業を営むうえで合理性を意識的に排除し、そのことによって自らの存在の固有性を獲得した。

② 上野村に伝わる山村の文化は、近代的な時間価値のもとで生きることを否定した高齢者によって担われている。

③ 時計が時間を支配する世界では、価値を生む労働時間と余暇や休息の時間は明確に区別され、管理が必要となる。

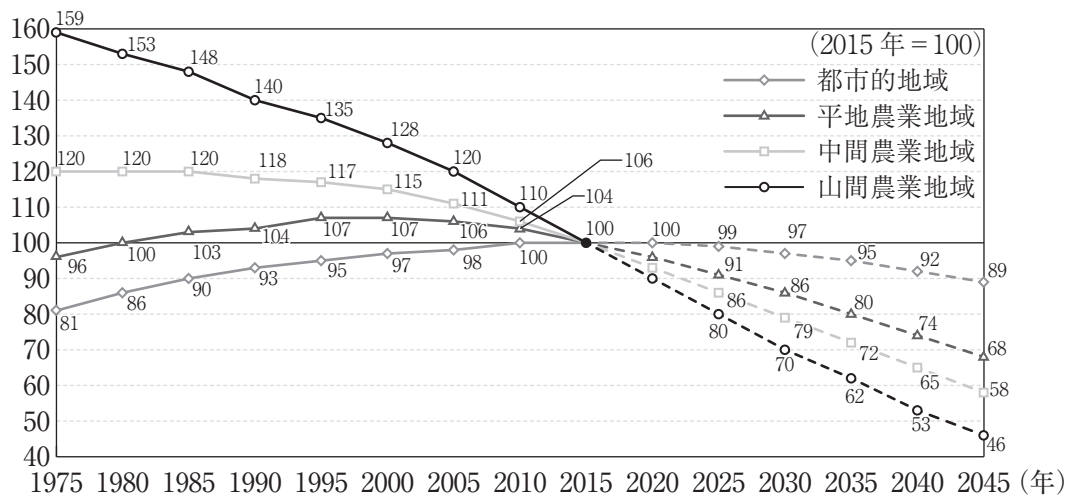
④ 仕事と暮らしとアソビが途切れずに繋がる時間世界と、経済的に豊かな暮らしをもたらす農業経営の両立が必要である。

(13) 次の資料は、「農業地域類型別の人口推移と将来予測」についての調査結果である。この資料から読み取ることができる内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 二〇一五年から二〇四五年にかけて、山間農業地域の人口はほぼ半減すると予測されているが、都市的地域の人口は継続的な増加が見込まれている。
- ② 都市的地域に比べると山間農業地域の高齢化は著しく、二〇四五年時点では六十五歳以上の人口比率が五割を超えると予想されている。
- ③ 二〇三五年時点の六十五歳以上の人口比率は、山間農業地域が平地農業地域の一・五倍であり、平地農業地域の高齢化は鈍化傾向にある。
- ④ 一九七五年から二〇一五年までの間、平地農業地域は人口増加が続いており、二〇二〇年以降の将来予測とは対照的なグラフになっている。

(農林水産政策研究所 令和元年度「農村地域人口と農業集落の将来予測結果について」より)



【高齢化率】 (65歳以上人口比率)	都市的地域	25.2%	28.2%	31.2%	35.3%
	平地農業地域	29.4%	35.4%	38.7%	43.3%
	中間農業地域	33.2%	39.2%	42.5%	46.9%
	山間農業地域	38.5%	45.4%	49.2%	53.7%

〈資料：「農業地域類型別の人口推移と将来予測」〉

問題は次のページに続きます。

〔二〕 次の古文は、ある僧（師）が、出家する前に国司（朝廷から派遣された地方官）を務めていた頃の話である。本文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある時、国司たりし時、官銭を盗みて、施行す。旁人、これを官奏す。帝聴いて、大いに驚き、あやしむ。諸臣、皆あやしむ。罪過すでに輕からず、死罪に行はるべしと定まりぬ。

ここに帝、議していはく、この臣は、才人なり。賢者なり。今、ことさら、この罪を犯す、もし、深き心あるか。もし、首を斬らん時、悲しび、愁へたる気色あらば、すみやかに斬るべし。もし、その気色なくんば、定めて深き心あり。斬るべからず。勅使引き去りて、斬らんと欲する時、少しも愁への気色なし。かへりて喜ぶ気色あり。自らいはく、「今生の命は、一切衆生に施す」と。使、驚きあやしんで、歸り、奏聞す。帝いはく、「しかり。定めて深き心あらん、この事あるべしと、かねてこれを知れり」。よつてその故を問ふ。師いはく、「官を辞して、命を捨て、施を行じて、衆生に縁を結び、生を仏家にうけて、一向に仏道を行ぜんと思ふ」と。帝、これを感じて、許して出家せしむ。よつて延寿と名をたまふ。殺すべきを、これをとどむる故なり。

〔「正法眼藏随聞記」による〕

（注） *官銭＝公の金

*施行＝貧しい人々に与えること

*旁人＝仲間

*官奏・奏聞＝帝に申し上げること

*勅使＝帝からの使者

*衆生＝生きとし生けるもの

*生を仏家にうけて＝仏門の人に生まれかわって

(1) 本文中で、「」が抜けている発話部分があります。その部分として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 罪過すでにゝ行はるべし ② この臣はゝ斬るべからず。
③ 斬らんとゝ気色なし。 ④ これをゝ出家せしむ。

(2) 傍線部ア「驚きあやしんで」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 今にも処刑されようとしている国司が、悲しむどころか満ち足りた表情を見せたから。
② 処刑の間際になって、国司が自分の命を奪おうとする大勢の人々への恨みを述べたから。
③ 国司の無実を知りながら処刑せざるを得ない勅使の動揺を、国司が逆手にとって責めたから。
④ 勅使が本当は刑を執行するつもりがないことを、国司が見抜いて言い当てたから。

(3) 傍線部イ「定めて深き心あらん」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 間違いなく深い心などないだろう
- ② 調べれば深い考えがわかるだろう
- ③ きつと深い考えがあるのだろう
- ④ 多分深い心だとは言いい切れないだろう

(4) 傍線部ウ「知れり」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

23

- ① 国司
- ② 勅使
- ③ 帝
- ④ 諸臣

(5) 国司が罪を犯した理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

24

- ① 朝廷が集めた公金を、貴族と貧民に分配しなおすことで、世の中の不平等を正そうと思ったから。
- ② 貴族たちが貧しい人々に施しをせずに華美な暮らしを送るのが許せず、仏の代わりに裁こうと考えたから。
- ③ 貧しい人々に与えるために公金を盗み死罪になることで、生まれ変わって仏道修行に励もうと思ったから。
- ④ 賢さとあつい信仰心で知られた自分が公金を盗むことで、世間の貧困の実情を朝廷に訴えたいと思ったから。

(6) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

25

- ① 国司は一度死罪となったが、帝の計らいによって名前を変えた後、都から出ていった。
- ② 国司の心がけに感動した帝は、死罪を撤回し、そのことに由来した新しい名前を与えた。
- ③ 人々を救うため仏門に入ったという心がけを聞いて、帝は国司の昔の罪をすべて許した。
- ④ 帝の制止が間に合わず、国司は処刑されたが、生まれ変わって仏となり人々を救った。

(7) 本作品と同じ鎌倉時代に活躍した人物として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

26

- ① 清少納言
- ② 紫式部
- ③ 額田王
- ④ 兼好法師

三

次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

会稽謝祖之婦、初

育一男、又生一蛇、長

二尺許、便徑出門去。

後數十年、婦以老終。

祖忽聞西北有風雨

之聲、頃之、見一蛇長

十數丈、腹可十餘围。

入戸造靈座、因至柩

所。繞數匝、以頭打柩、

目血淚俱出。良久而

去。

〔幽明録〕による

（注）

*会稽＝中国の地名

*二尺＝約五十センチメートル

*十數丈＝一丈は約二・四メートル

*靈座＝祭壇

*柩所＝柩の安置場所

*數匝＝何重にもなつて

(1) 傍線部①「初育一男」が「初め一男を育^うみ」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Dに適するものを、それぞれ後の①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい（同じ番号を何度選んでもよい）。

初
A 育 B 一 C 男 D

・ A 27 ・ B 28 ・ C 29 ・ D 30

- ① 一 ② 二 ③ 三 ④ レ
⑤ レ ⑥ 上 ⑦ 下 ⑧ 返り点なし

(2) 傍線部②「去」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 一男 ② 蛇 ③ 謝祖 ④ 婦

(3) 傍線部③「終」とありますが、これと同じ意味を熟語で表現したときに最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

32

- ① 終始 ② 終局 ③ 有終 ④ 臨終

(4) 傍線部④「祖忽聞西北有風雨之声」とありますが、これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

33

- ① 突然西北から雨風の激しい音がしたという描写によって、異変が起ることを予兆している。
② 西北からの嵐が次第に近づいてくるという描写によって、謝祖の深い悲しみを象徴している。
③ 西北から激しい風雨の音が聞こえてきたという描写によって、妻の苦しみを表現している。
④ 急に西北で嵐が起ったという描写によって、会稽が呪われていることを暗示している。

(5) 傍線部⑤「入戸造霊座、因至柩所」を書き下し文に直したとき、八番目に読む漢字を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

34

- ① 因 ② 至 ③ 柩 ④ 所

(6) 傍線部⑥「以頭打柩、目血涙俱出」の現代語訳として最も適当なもの、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

35

- ① 柩で頭を打ち、目から血を流して苦しんだ
- ② 柩の中で頭を下げ、血のように赤い涙を流した
- ③ 柩に頭を打ちつけ、目から血と涙を流した
- ④ 柩に頭を打ち、血のように赤い目から涙を流した

(7) この文章の内容として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

36

- ① 蛇には、同じ母親から生まれた人間の兄が存在する。
- ② 蛇は生後すぐ家から去り、長年の間姿を見せなかった。
- ③ 蛇は生まれた直後と変わらない姿で、生家に再び現れた。
- ④ 蛇は母親の棺ひつぎに別れを告げると、再び去って行った。

四

次の(1)～(5)の意味を持つ故事成語として最も適当なものを、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 仲の悪い者同士が同じ場所にいること。

37

(2) 団体の中心となって思い通りに事を運ぶこと。

38

(3) 弟子が師よりも優れること。

39

(4) 多くのもののなかで最もすぐれているもの。

40

(5) 見かけはりっぱでも中身がともなわないこと。

41

① 螢雪の功

② 牛耳を執る

③ 塞翁が馬

④ 出藍の誉れ

⑤ 白眉

⑥ 呉越同舟

⑦ 漁夫の利

⑧ 羊頭狗肉